年度社長方針・重点施策および各部の具体的実施事項を定めるために，前年度の期末反省を行ったもの。

２０ｘｘ年度（第 23 期） 年度方針　期末反省書	部　名	技　術　部	社　長	徳川　武蔵　印	作成年月日	修正日①	20x　年　月　日
			部　長	白山　六郎　印	20xx 年 01 月 18 日	修正日②	20x　年　月　日

NO	社長方針・重点方策	NO	部の具体的実施事項	管理項目	目標値	期限	アウトプット
Ⅰ—④	新規事業分野の開拓による売上高の向上	Ⅰ—1	建設汚泥処理技術の開発による受注高の達成	受注件数 受注金額 技術開発実用化件数	□□件 □□億 □□件	xx．03．31	受注管理台帳 技術開発管理台帳

1．部門重点方策または具体的実施事項に対する目標値・実績推移（達成評価）　2．主な改善内容と具体的成果（問題点の解析）　3．反省と残された課題　4．次年度への課題（次年度計画への折り込み）

1．目標値・実績推移

結果である目標の達成度を明確にする。各月のバラツキをみることも必要。

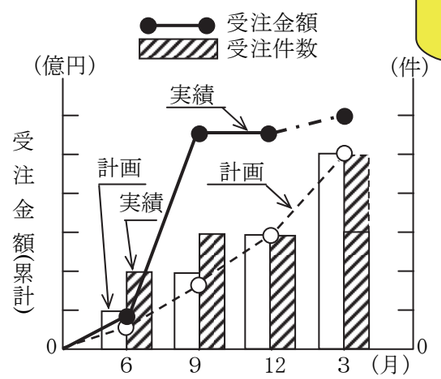


図１　汚泥処理関係の受注金額・件数推移（累計）

目標達成

2)　受注件数は，□□関連工事□件の受注予定を含めて目標達成見込み

3)　□□関連計画中

①目標に未達であったことの問題点（結果系）
②方策の実践に関する，または方策そのものに関する問題点（要因系）の両面から解析する。
方策の内容と結果（管理項目）の相関性を検証し，次年度の良い方策をひねり出すことが目的。

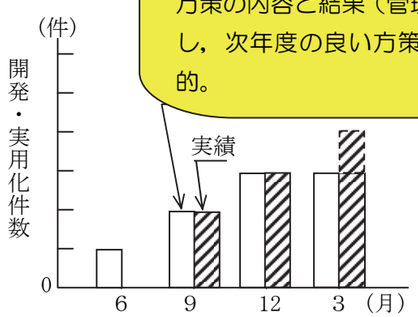


図２　技術開発・実用化件数推移

9)

3)　□□実証施工(xx／8)

4)　□□・□□実証工計画中(xx／2)

以上により目標達成

2．主な改善内容と具体的成果

結果を生み出すための方策すなわち改善内容（プロセス）である。

（方策の実施事項）

①　□□・□□メーカーと共同で□□□□した。（□□市より受注）

②　上記開発設備の技術資料を整備し，売り込みに活用した。（10 社）

（改善内容）

技術開発のＰＲができるようになった。

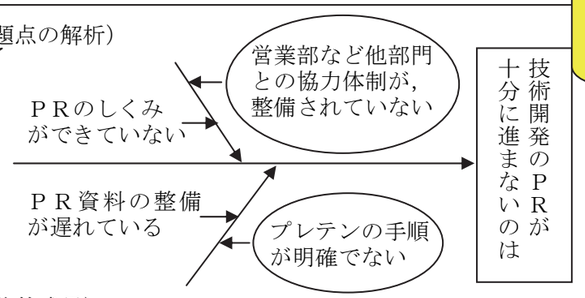
①　□□□□の方針が明確になった。

②　□□□□の方針とＰＲ計画を明確にした。

③　ＰＲ手段とツールを整備した。
（パンフレット，ビデオ，案内書，新聞・雑誌掲載，展示会出展）

問題点：技術開発のＰＲ活動が，十分進まなかった。

（問題点の解析）



（具体的成果）

①　□□□□**技術の開発**ができた。

②　開発・実用化に関連する帳票が整備された。
- a．**開発情報シート（制定** xx.1.20）
- b．**技術開発・改良企画書（制定** xx.1.20）
- c．**品質目標管理表（制定** xx.5.8）
- d．**不良解析シート（制定** xx.5.8）

③　□□□□，□□□□と□□工事を結合させた施工技術について見通しがついた。

方策実施結果の反省事項。

方策の実施（改善）の結果アウトプットできた，管理のためのしくみ・ツール。

3．反省と残された課題

（反省）

1．　□□方式の□□□□□□□のＰＲ及び拡販に対 して，当社営業部・工事部との協力体制やプレテンの 手順が確立されていない。

2．　技術開発・改良企画書により，開発内容を具体的に企画できるようになった。

3．　不良解析シートにより，開発後のトラブルを解析しフィードバックできるようになった。

この課題は長期的な観点で示す。

（課題）

□□を組み込んだ□□□□□□工事の実証施工と改善

□□を組み込んだ□□□□工事の実証施工と改善

□□□□のユニット化と実証施工

4．次年度への課題

この課題は次年度中に解決すべき，短期的観点で示し方策を含む。

1．　プレテン手順の明確化により，新技術を実施し，営業活動の支援を強化する。

2．　改良□□□□□□を活用できる工事を受注し新規分野を開拓する。

3．　□□□□□□□□に，新技術を加え，適用領域を拡大する

□□を処理できる機構を加える。

□□に□□を組込んだ省スペース中型都市土木工

用□□の企画

4．　□□□□のユニット化を進める。